

台風特集 –九州に接近・上陸した台風事例–

–本号の目次–

風速	1
台風の大きさと強さ	1
台風事例報告① 東シナ海を北上した大型の台風第5号（2019年）	2-3
台風事例報告② 九州を縦断した強い台風第8号（2019年）	4-5
台風事例報告③ 九州の東を北上した超大型の台風第10号（2019年）	6-7
台風事例報告④ 東シナ海から対馬海峡に進んだ台風第17号（2019年）	8-9
台風事例報告⑤ 東シナ海を北上した強い台風第7号（2018年）	10-11
ドボラック法 衛星画像から台風の中心気圧を推定する方法の1つをご紹介します	12-13
本号のまとめ	14

風速

地上気象観測では10分間平均風速を「風速」としています。本稿で用いる最大風速は10分間平均風速の最大値です。航空気象観測では2分間平均風速を「風速」とする場合もあります。

瞬間風速は、ある瞬間の風速を示します。瞬間風速は「風速」の1.5倍から3倍程度に達することがあります。本稿で用いる最大瞬間風速は瞬間風速の最大値です。最大風速や最大瞬間風速については気象庁ホームページ：

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/faq/faq2.html> をご覧ください。

台風の大きさと強さ

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、風速をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。

「大きさ」は強風域（風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲）の半径の階級で、「強さ」は最大風速の階級で区分しています。

また、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

詳しくは、気象庁ホームページ：

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/typhoon/1-3.html> をご覧ください。

台風事例報告①

東シナ海を北上した大型の台風第5号（2019年）

<はじめに>

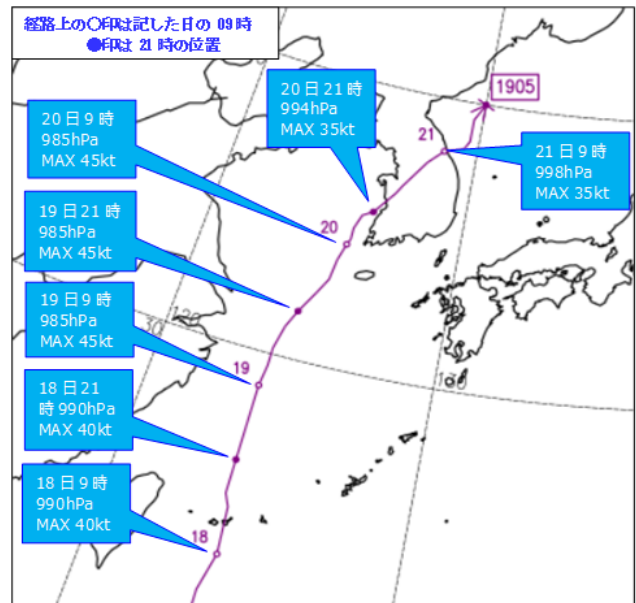
2019年7月18日から20日にかけて大型の台風第5号が東シナ海を北上し、九州北部地方で大雨となりました。佐賀空港では観測史上1位の1時間降水量、福江空港では7月の1位となる24時間降水量を観測しました。

<台風第5号の経路>

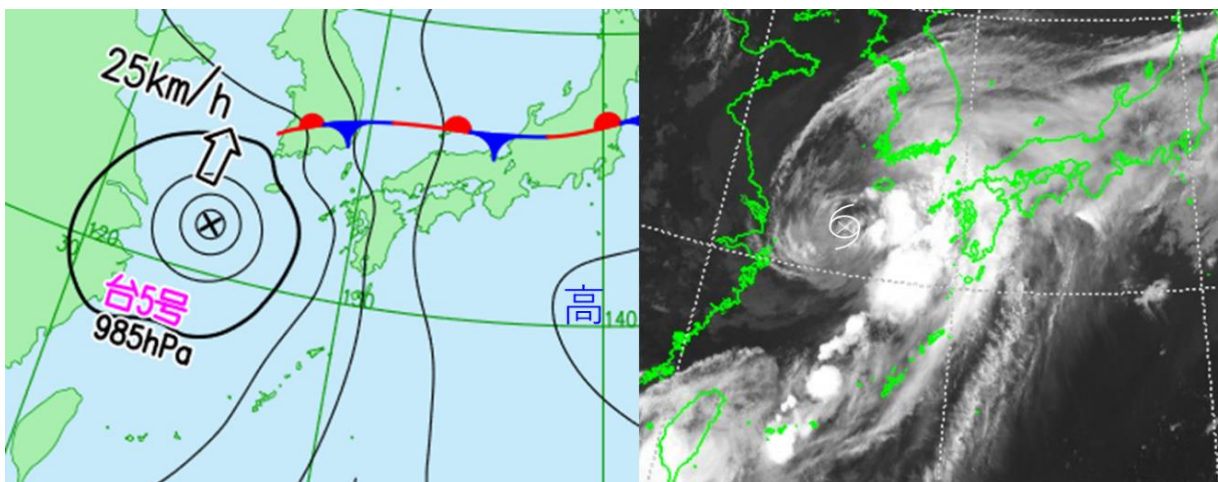
第1図は台風第5号の経路図です。7月16日15時（以下、日本時間）にフィリピンの東で発生した台風第5号は、17日15時に大型の台風となり、台風を中心から南東側で650kmの強風域を伴いつつ20日にかけて東シナ海を北上し、中心気圧は九州に最接近した19～20日に985hPaまで発達しました。

<本事例の特徴>

第2図は、7月19日21時の地上天気図と衛星画像です。地上天気図では、朝鮮半島から本州に停滞前線がのびています。太平洋の高気圧から台風や前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、衛星画像では台風の東側から南側に白く輝く塊状のCb（積乱雲）が連なっているのがわかります。本事例では、台風進路の東側に当たる東シナ海沿岸で強風となったほか、九州北部地方で記録的な大雨となりました。



第1図 台風第5号の経路図



第2図 2019年7月19日21時の地上天気図（左）、衛星赤外画像（右）

<各地の強風域入出と最接近、観測データ等>

第1表は各空港の風、降水量、気圧の極値表です。九州地域では台風の接近・通過に伴って東から南風となりました。

長崎空港では20日15時1分に最大瞬間風速38kt（南）、14時21分に最大風速29kt（南南東）を観測しました。

佐賀空港では、観測史上1位となる1時間降水量60.5ミリを21日4時45分に観測しました。第1表では観測史上1位を桃の背景色で示しています。

福江空港では、24時間降水量340.0ミリを20日13時30分に観測し7月の極値を更新しました（7月の1位、第1表に黄の背景色で示しています）。

福岡空港では台風最接近前の18日19時36分に飛行場大雨警報（1時間降水量50ミリ以上）を発表し、1時間降水量40.5ミリを18日19時43分に観測しました。

第1表 各空港の風、降水量、気圧の極値表

T1905 台風 第5号(令和元年7月)

※JST＝日本時間

官署	日	JST	日	JST	日	JST	日	JST	日	JST
	最大瞬間風速		最大風速		降水量 1時間最大		降水量 24時間最大		最低海面気圧	
山口宇部	20	13:26	20	13:51	18	22:28	19	08:50	20	16:59
	34kt E		27kt E		38.5 mm		109.5mm		1004.8hPa	
北九州	20	06:08	20	16:06	18	20:34	19	08:30	20	16:30
	32kt E		21kt SE		38.5mm		97.5mm		1003.4hPa	
福岡	20	22:08	20	22:15	18	19:43	21	19:10	20	15:36
	27kt SSE		20kt SSE		40.5mm		115.5 mm		1002.6hPa	
佐賀	20	15:09	20	15:14	21	04:45	21	05:30	20	17:04
	34kt SSE		26kt SSE		60.5mm		151.5 mm(参考)		1003.2hPa	
対馬	20	06:27	20	06:32	20	13:16	20	16:30	20	15:21
	47kt ESE		34kt ESE		53.5mm		277.5mm		1000.8	
福江	20	10:31	20	08:00	20	10:13	20	13:30	20	00:27
	55kt SSE		36kt S		58.0mm		340.0mm		1000.4hPa	
長崎	20	15:01	20	14:21	-	-	-	-	20	14:00
	38kt S		29kt SSE		欠測		欠測		1002.4hPa	
熊本	19	23:18	19	20:10	22	06:54	22	09:40	20	16:40
	21kt ESE		16kt ENE		41.0mm		138.0 mm		1003.8hPa	
大分	20	14:03	20	15:11	22	10:59	19	15:40	20	16:46
	33kt SSE		26kt SSE		26.0mm		55.0mm		1006.4hPa	
宮崎	20	11:57	20	12:13	18	07:08	21	15:50	20	19:11
	28kt S		21kt SSE		31.5mm		65.0mm		1008.3hPa	
鹿児島	20	18:53	20	19:00	21	11:29	21	15:30	20	13:26
	29kt S		18kt S		32.5mm		154.0mm		1006.8hPa	
種子島	20	12:29	20	12:30	20	18:22	17	12:20	20	14:33
	32kt SSE		20kt SSE		4.5mm		7.5mm		1007.9hPa	
奄美	18	12:29	18	06:28	18	12:23	19	07:50	19	17:58
	33kt S		28kt S		1.0mm		1.5mm		1005.3hPa	

50kt以上
40kt以上

統計開始以来の極値更新(観測史上1位)

月極値更新(7月の1位)

※雨量計障害(長崎・佐賀)

台風事例報告②

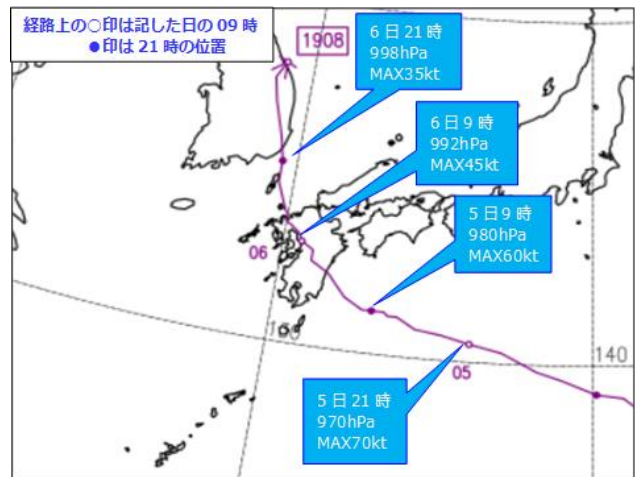
九州を縦断した強い台風第 8 号（2019 年）

<はじめに>

2019 年 8 月 5 日から 7 日にかけて強い台風第 8 号が九州を縦断し、欠航便が多数発生しました。

<台風第 8 号の経路>

第 3 図は台風第 8 号の経路図です。8 月 2 日 21 時に南鳥島近海で発生した台風第 8 号は、4 日 21 時に暴風域を伴い、5 日 18 時に強い勢力の台風となり、強い勢力のまま中心気圧 970hPa で 6 日 5 時頃に宮崎市付近に上陸しました。その後、台風は衰弱しながら九州を縦断し、対馬海峡を北上して朝鮮半島に上陸しました。



第 3 図 台風第 8 号の経路図

<本事例の特徴>

第 4 図は、8 月 6 日 9 時の地上天気図です。台風第 8 号は衰弱しながら九州を縦断する途中で暴風域は無くなりましたが、台風を中心付近や進行方向の右側となった空港で風が強まりました。

<運航や空港施設への影響>

台風の接近・通過の際に、最大風速 40kt 以上、最大瞬間風速 50kt 以上を宮崎、北九州、山口宇部空港で観測しました（第 2 表に赤字で示しています）。この台風の影響により欠航便が多数発生しましたが、強風等による空港施設等への影響はありませんでした。



第 4 図 地上天気図 8 月 6 日 9 時

<各地の強風・暴風域入出と最接近、観測データ等>

第 2 表は各空港の風、気圧の極値表です。九州地域では、台風第 8 号の接近・通過に伴って風が強まり、台風を中心付近に近かった宮崎空港では 6 日 4 時 29 分には最大瞬間風速 77kt（西南西）、最大風速 46kt（西）を観測し、最大瞬間風速は 8 月の極値を更新しました（8 月の 1 位、第 2 表に黄の背景色で示しています）。

第2表 各空港の風、気圧の極値表

T1908 台風 第8号(令和元年8月)

※JST=日本時間

官署	日	JST	日	JST	日	JST
	最大瞬間風速		最大風速		最低海面気圧	
山口宇部	6	11:24	6	11:45	6	11:29
	54kt E		42kt E		999.3hPa	
北九州	6	10:02	6	10:52	6	10:52
	57kt ENE		42kt ENE		998.6hPa	
福岡	6	16:31	6	15:07	6	10:23
	43kt SSE		32kt SSE		997.1hPa	
佐賀	6	08:35	6	15:09	6	10:17
	38kt N		26kt S		995.1hPa	
対馬	6	12:44	6	13:13	6	17:08
	30kt NE		16kt N		997.7hPa	
福江	6	11:18	6	09:39	6	11:36
	26kt N		18kt N		1002.1hPa	
長崎	6	02:52	6	09:56	6	09:48
	33kt NNE		23kt NW		997.8hPa	
熊本	6	04:30	6	04:32	6	08:17
	45kt ENE		35kt NE		990.7hPa	
大分	6	11:13	6	11:04	6	10:49
	45kt SE		33kt ESE		1001.7hPa	
宮崎	6	04:29	6	04:29	6	04:20
	77kt WSW		46kt W		982.1hPa	
鹿児島	6	03:57	6	03:49	6	04:44
	31kt WNW		22kt NW		995.6hPa	
種子島	6	04:48	6	04:58	6	02:41
	30kt W		21kt W		999.1hPa	
奄美	5	05:02	5	05:11	6	17:50
	17kt ENE		14kt ENE		1002.8hPa	

50kt以上 40kt以上
月極値更新(8月の1位)

990hPa未満

台風事例報告③

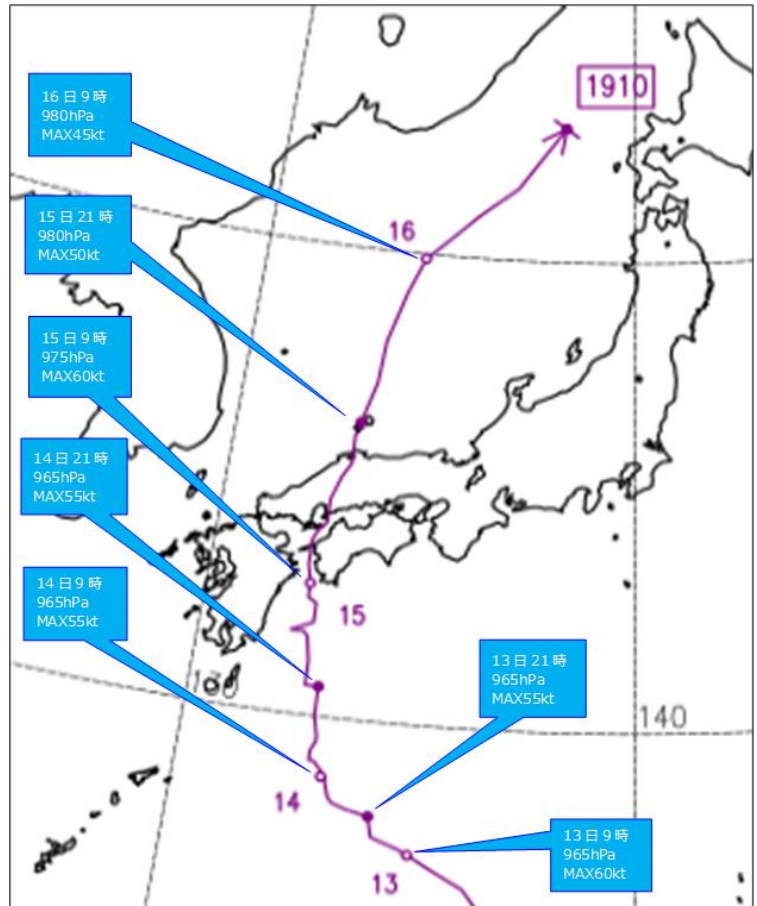
九州の東を北上した超大型の台風第 10 号（2019 年）

<はじめに>

2019 年 8 月 13 日から 16 日にかけて九州の東を超大型の台風第 10 号が北上しました。台風を中心に近かった宮崎、大分空港で最大風速 30kt 以上を観測し、多数の欠航便がありました。強風等による空港施設等への影響はありませんでした。

<台風第 10 号の経路>

第 5 図は台風第 10 号の経路図です。8 月 6 日 15 時にマリアナ諸島で発生した台風第 10 号は、12 日 15 時に超大型となり、中心の南側 1100km 以内と北側 560km 以内で強風域を伴い、日本の南を北上しました。台風は、15 日の昼頃に豊後水道を通過し、九州に最も接近しました。その後、台風は 15 日 15 時には中心気圧 978hPa で広島県呉市付近に上陸し、中国地方を縦断後、日本海を北上しました。



第 5 図 台風第 10 号の経路図

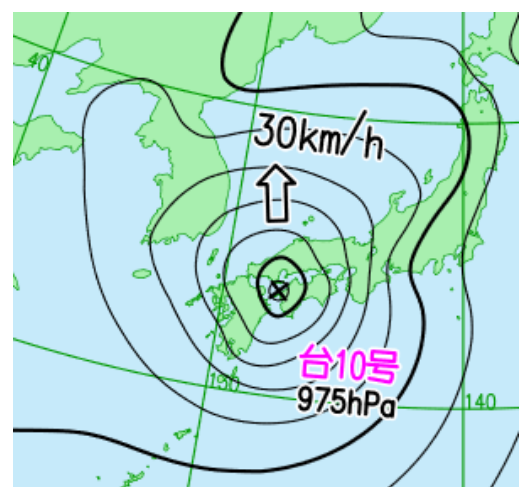
<本事例の特徴>

第 6 図は、8 月 15 日 9 時の地上天気図です。台風第 10 号は衰弱しながら九州の東を北上しました。西日本の広い範囲で気圧の傾きが大きく、広範囲で風が強まりました。

台風を中心に近い宮崎、大分空港で最大風速 30kt 以上を観測し、最大瞬間風速は宮崎空港で 55kt を観測しました（第 3 表に赤字で示しています）。

<運航や空港施設への影響>

台風第 10 号は超大型だったため、西日本の空港で多数の欠航便がありました。強風等による空港施設等への影響はありませんでした。



第 6 図 地上天気図 8 月 15 日 9 時

<各地の強風・暴風域入出と最接近、観測データ等>

第3表は各空港の風、気圧の極値表です。九州地域では、台風第10号の接近・通過に伴って風が強まり、宮崎空港では8月14日18時41分に最大瞬間風速55kt（北）、18時50分に最大風速38kt（北北東）を観測しました。

大分空港でも15日4時18分に最大瞬間風速38kt（北北東）、2時43分に最大風速30kt（北北東）を観測しました。

第3表 各空港の風、気圧の極値表

T1910 台風 第10号(令和元年8月) ※JST=日本時間

官署	日	JST	日	JST	日	JST
	最大瞬間風速		最大風速		最低海面気圧	
山口宇部	15	17:00	15	23:28	15	11:25
	32kt W		22kt WSW		980.3hPa	
北九州	15	17:23	15	17:46	15	12:24
	34kt W		23kt WNW		981.3hPa	
福岡	15	16:11	15	15:35	15	05:02
	28kt WNW		19kt WNW		982.7hPa	
佐賀	14	14:45	15	14:53	15	04:59
	31kt NNE		23kt W		982.2hPa	
対馬	14	15:52	14	22:43	15	15:20
	34kt NNE		22kt N		986.5hPa	
福江	15	07:46	15	02:15	15	03:23
	35kt N		24kt N		987.3hPa	
長崎	15	14:03	15	02:32	15	04:34
	31kt WNW		24kt NNW		983.2hPa	
熊本	14	10:09	14	10:17	15	04:50
	29kt ENE		19kt ENE		980.7hPa	
大分	15	04:18	15	02:43	15	08:54
	38kt NNE		30kt NNE		979.3hPa	
宮崎	14	18:41	14	18:50	15	03:14
	55kt N		38kt NNE		976.9hPa	
鹿児島	15	14:08	15	04:36	15	04:30
	35kt W		23kt NW		978.8hPa	
種子島	14	20:39	14	20:26	14	20:22
	45kt NW		29kt NW		978.4hPa	
奄美	14	19:37	13	21:25	14	18:01
	39kt W		26kt N		988.5hPa	

50kt以上

40kt以上

990hPa未満

台風事例報告④

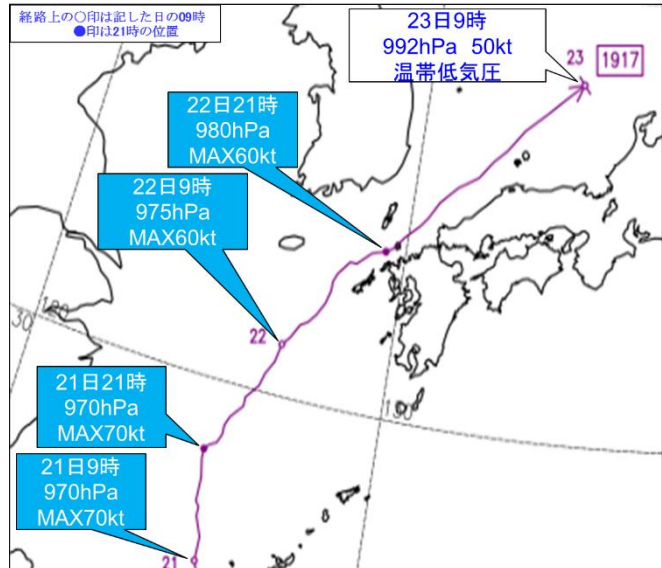
東シナ海から対馬海峡に進んだ台風第17号（2019年）

<はじめに>

2019年9月22日に台風第17号が対馬海峡を北東に進みました。九州北部地方は台風の進路の東側にあたり、広範囲で風が強まって多数の欠航便がありました。

<台風第17号の経路>

第7図は台風第17号の経路図です。9月19日に沖縄の南で発生した台風第17号は、21日に沖縄本島の西へ進んで東シナ海に入り、22日夜遅くには対馬海峡を抜けて日本海に進み、23日9時に日本海で温帯低気圧となりました。



第7図 台風第17号の経路図

<本事例の特徴>

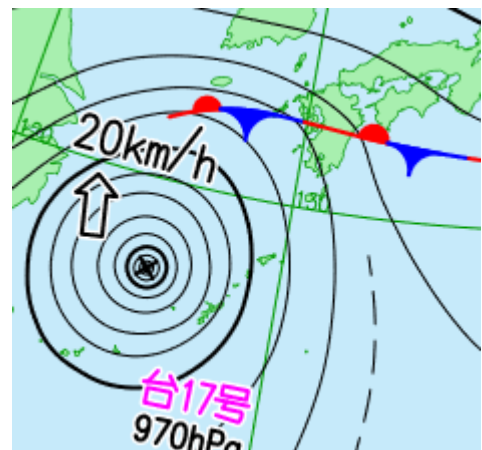
第8図は9月21日15時、第9図は22日21時の地上天気図です。台風接近前は、九州付近の停滞前線に向かって台風から暖かく湿った空気が流入し、前線付近で大雨となりました。宮崎空港では1時間に109.5ミリの猛烈な雨を観測しました。

また、台風が東シナ海から対馬海峡に進んだため、九州北部地方は台風の進路の東側にあたり広い範囲で風が強まりました。長崎空港で最大風速58ktを観測するなど、西日本の広い範囲で最大風速40kt以上の非常に強い風を観測したほか、宮崎県延岡市では22日に竜巻が発生しました。

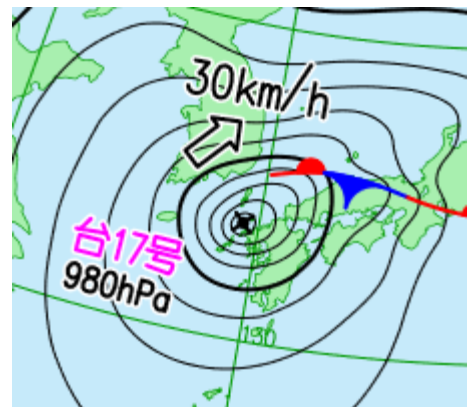
<運航や空港施設への影響>

空港施設への被害はありませんでしたが、九州北部地方の空港を中心に多数の欠航便が発生しました。

福岡空港ではコンテナが空港内を転がる等、2019年で最も強い風を観測しました。長崎空港や佐賀空港周辺では、停電のため非常用発電で運用した時間帯がありました。



第8図 地上天気図 9月21日15時



第9図 地上天気図 9月22日21時

<各地の強風・暴風域入出と最接近、観測データ等>

第4表は各空港の風、気圧の極値表です。台風第17号の接近・通過に伴って、九州北部地方の空港は全て暴風域に入り、飛行場暴風警報（10分間平均風速48kt以上）を福岡、長崎、佐賀空港で、飛行場強風警報（10分間平均風速34kt以上）を北九州、大分、熊本、宮崎、鹿児島空港で発表しました。飛行場暴風警報を発表した長崎空港では22日19時31分に最大瞬間風速76kt（南南東）、福岡空港では22日22時17分に最大瞬間風速66kt（南）を観測し、観測史上1位（統計開始2009年9月）の記録を更新しました（第4表に桃の背景色で示しています）。その他多くの空港でも、9月の観測史上1位の記録を更新しました。

第4表 各空港の風、気圧の極値表

T1917 台風 第17号(令和元年9月) ※JST=日本時間

官署	日 JST		日 JST		日 JST	
	最大瞬間風速		最大風速		最低海面気圧	
山口宇部	23	01:08	23	02:01	22	22:01
	48kt SSW		36kt SW		989.7hPa	
北九州	23	01:01	23	01:26	22	23:02
	49kt SSW		42kt SW		989.7hPa	
福岡	22	22:17	22	20:28	22	22:18
	66kt S		52kt SSE		987.2hPa	
佐賀	22	22:02	22	22:08	22	20:27
	65kt S		48kt S		987.3hPa	
対馬	22	20:24	22	19:14	22	19:57
	52kt NNE		33kt NNE		987.5hPa	
福江	22	14:49	22	20:28	22	17:41
	62kt SSE		41kt NNW		979.1hPa	
長崎	22	19:31	22	19:10	22	19:25
	76kt SSE		58kt S		986.2hPa	
熊本	22	23:12	22	23:22	22	19:22
	49kt SSW		28kt SSW		992.7hPa	
大分	23	01:40	23	01:45	22	23:44
	53kt SSW		44kt SSW		993.3hPa	
宮崎	22	14:15	22	16:11	22	17:11
	47kt SSE		38kt SE		999.7hPa	
鹿児島	22	16:47	22	16:11	22	15:58
	47kt SSW		28kt S		997.8hPa	
種子島	22	12:22	22	05:09	22	16:19
	44kt S		25kt SE		1001.5hPa	
奄美	22	02:23	21	12:48	22	05:23
	58kt S		50kt S		1001.1hPa	

50kt以上 40kt以上 990hPa未満
統計開始以来の極値更新(観測史上1位)
月極値更新(9月の1位)

台風事例報告⑤

東シナ海を北上した強い台風第7号（2018年）

<はじめに>

2018年7月2日から3日にかけて、台風第7号は強い勢力を保ったまま東シナ海を北上し対馬海峡に進みました。九州北部地方は台風の進路の東側となって各地で強風・暴風となり、7月の風速の最大値を更新した所がありました。各地の記録をまとめましたので報告いたします。また、このときの気象衛星による台風の「見た目」で中心気圧を推定する方法も紹介いたします。

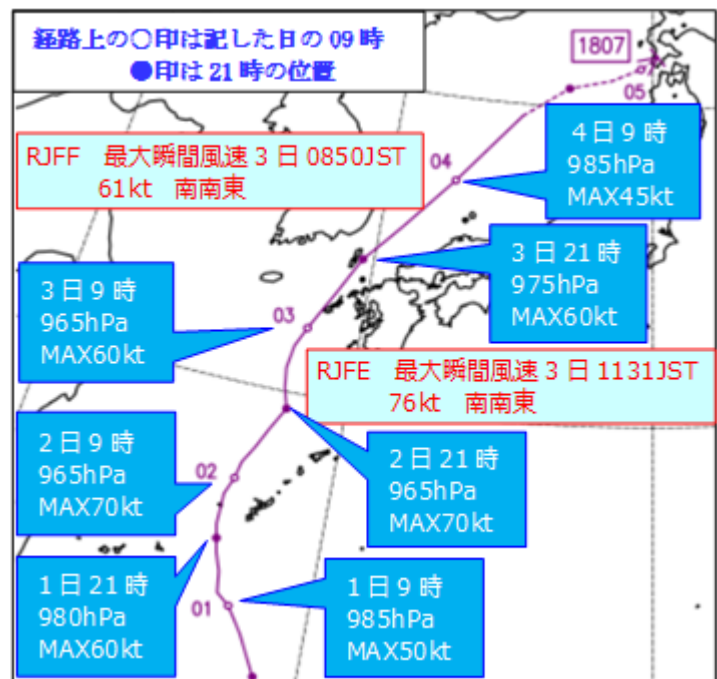
<台風第7号の経路>

第10図は台風第7号の経路図です。6月29日9時にフィリピンの東で発生した台風第7号は、暴風域を伴いつつ沖縄の西から東シナ海に進み、強い勢力を保ったまま東シナ海を北上しました。

台風は、中心気圧965hPa～975hPaで対馬海峡を北東へ進み、4日15時に日本海中部で温帯低気圧となりました。

<本事例の特徴>

台風事例報告④と同様に、台風が東シナ海から対馬海峡に進んだため、九州北部地方の広い範囲で風が強まりました。



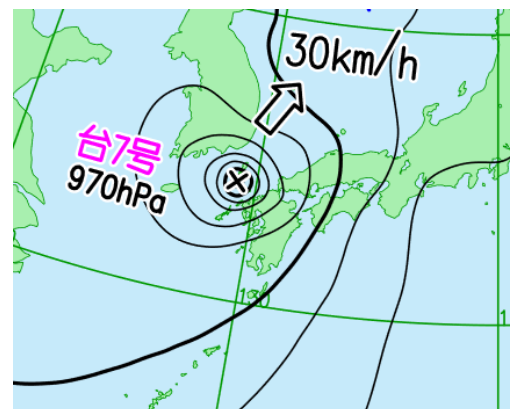
第10図 台風第7号の経路図

<運航や空港施設への影響>

台風は、福江空港に3日12時頃最接近したとみられ、福江空港では3日11時31分に最大瞬間風速76kt（南南東）、3日12時8分に最大風速48kt（南）、3日11時49分に最低海面気圧970.3hPaを観測しました。福江空港では場周道路が倒木により通行不可となりました。

長崎空港では3日16時頃最接近したとみられ、3日13時27分に最大瞬間風速70kt（南東）、3日13時26分に最大風速52kt（南南東）を観測しました。長崎空港ではフェンスや照明器具等が破損しました。

その後、福岡空港へは3日20時頃に最接近（第11図）したとみられ、3日18時50分に最大瞬間風速61kt（南南東）、3日19時4分に最大風速42kt（南南東）を観測しました。



第11図 地上天気図 7月3日18時

福岡空港ではゴーア라운드（着陸のやり直し）や欠航便が多数発生しました。

<各地の強風・暴風域入出と最接近、観測データ等>

第5表は各空港の風、気圧の極値表です。九州地域では、台風第7号の接近・通過に伴って東から南風となり、台風を中心に近い福江空港と長崎空港では飛行場暴風警報級（風速48kt以上）の風速を観測し、その他の空港でも飛行場強風警報級（風速34kt以上）の風速を観測しました。

6 空港（山口宇部・福岡・佐賀・対馬・福江・長崎）で最大瞬間風速及び最大風速の月極値を更新しました（7月の1位）。第5表に黄の背景色で示しています。

第5表 各空港の風、気圧の極値表

T1807 台風 第7号(平成30年7月)						※JST＝日本時間						
官署	日		JST		日		JST		日		JST	
	最大瞬間風速				最大風速				最低海面気圧			
山口宇部	3	14:38		3	15:52		3	18:08				
	47kt ESE				36kt ESE				992.7hPa			
北九州	3	12:26		3	12:43		3	18:20				
	38kt E				25kt ESE				991.3hPa			
福岡	3	18:50		3	19:04		3	18:36				
	61kt SSE				42kt SSE				987.9hPa			
佐賀	3	18:02		3	18:37		3	17:57				
	57kt S				43kt S				988.8hPa			
対馬	3	18:08		3	18:03		3	20:00				
	59kt E				34kt E				971.9hPa			
福江	3	11:31		3	12:08		3	11:49				
	76kt SSE				48kt S				970.3hPa			
長崎	3	13:27		3	13:26		3	14:34				
	70kt SE				52kt SSE				987.8hPa			
熊本	3	19:07		3	20:03		3	14:40				
	29kt SSW				17kt SSW				992.7			
大分	3	15:37		3	16:22		3	17:28				
	44kt SE				34kt SE				994.8hPa			
宮崎	3	02:57		3	10:34		3	17:09				
	42kt SE				30kt SSE				997.3hPa			
鹿児島	3	03:53		3	14:58		3	14:46				
	42kt ESE				25kt S				995.9hPa			
種子島	3	06:07		3	06:36		3	06:37				
	41kt SSE				25kt SSE				999.2hPa			
奄美	2	21:50		2	18:00		2	17:50				
	58kt S				41kt SSE				997.2hPa			
50kt以上 40kt以上 990hPa未満												
月極値更新(7月の1位)												

ドボラック法

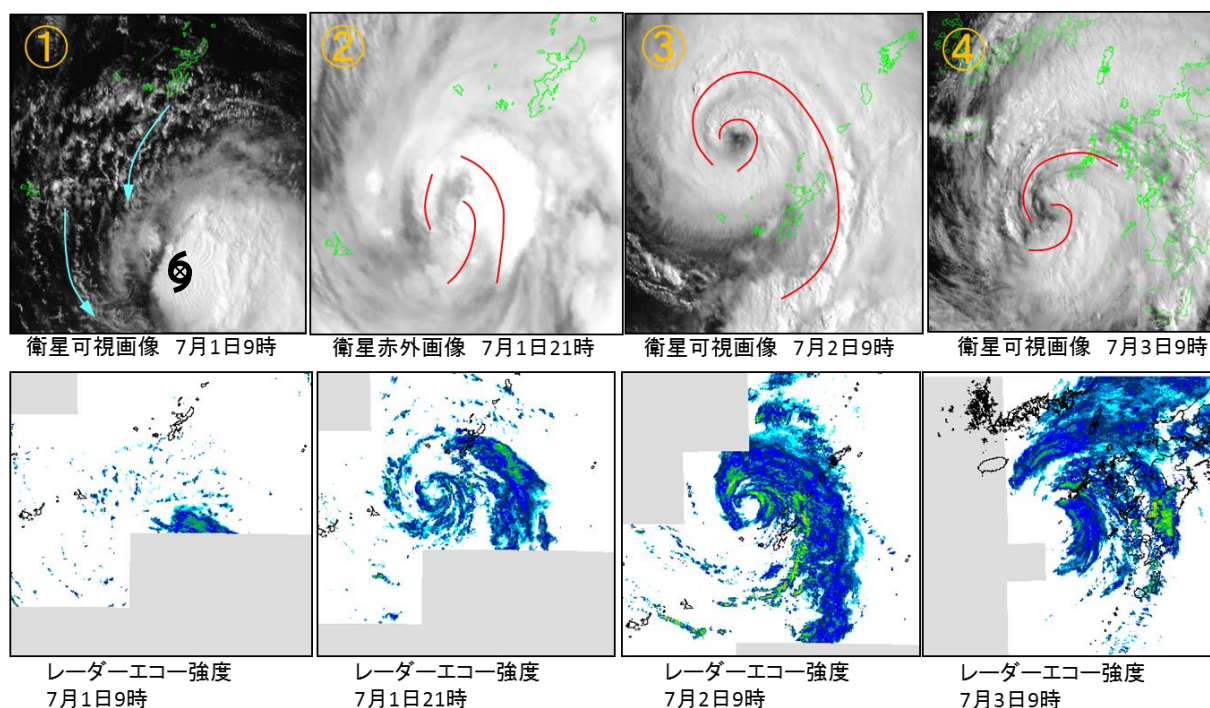
衛星画像から台風中心気圧を推定する方法の1つをご紹介します

第12図は、2018年の台風第7号（悪天事例報告⑤）が太平洋から東シナ海に進んだときの衛星画像です。台風周辺の雲域が次第に「らせん状」に変化する様子がわかります。

気象衛星画像を利用して、台風に伴う積乱雲の形や輝度温度から台風の中心位置と強度（最大風速及び中心気圧）を推定する手法としてドボラック法があります。ドボラック法は、観測点の少ない海上において台風の中心位置と強度を推定する有効な手法です。

ドボラック法の一つに、過去の熱帯擾乱の衛星画像を積乱雲の形と発達過程でパターン分類したチャート（図略）を用いて中心気圧を推定する方法があります。以下に、この方法による第12図の注目点と推定される中心気圧を記します。

- ① 7月1日9時：台風は沖縄の南にあり、可視画像では台風に伴うCb（積乱雲）の塊がみられます。Cbの北側や西側から下層雲列（図中水色矢印）がCbの西端を指向しており、台風の中心はこのCbの西端付近（図中⑥）にあります。この形は発生初期のCb-Cluster（シービークラスター）パターンからC-BAND（カーブドバンド）パターンへの移行期で、中心気圧は990hPa前後と推定できます。
- ② 7月1日21時：台風は沖縄の南西海上に進み、赤外画像では台風の周辺にCbの雲列（図中赤線）が見られます。この形はC-BANDパターンと呼ばれ、中心気圧は980hPa前後と推定できます。
- ③ 7月2日9時：台風は沖縄本島の北西に進み、可視画像ではCbの雲列（図中赤線）が概ね中心を1周し、渦巻き状になりました。この形はC-BANDパターンからBanding Eye



第12図 台風第7号に伴う雲域とレーダーエコー（降水強度）

(バンド状眼) パターンへの移行期で、中心気圧は 965hPa 前後と推定できます。

- ④ 7 月 3 日 9 時：台風は福江の南西海上に進み、可視画像では 1 日前に比べて、台風の西側の Cb 域が衰弱していますが、Cb の雲列（図中赤線）は明瞭で、Banding Eye パターンです。中心気圧は 965hPa 前後と推定できます。

ドボラック法による実際の台風解析作業は、パターンだけでなく台風の Cb の面積や雲頂温度、発達過程等を総合的に考慮して台風の位置と強度(最大風速及び中心気圧)を推定しています。

本号のまとめ

本号では、最近九州に接近・上陸した台風の事例をまとめました。空港での風向や風速は、台風のコースや勢力によって大きく変わります。また、空港周辺の地形によって特定の風向で風速が強まったり、弱まったりする場合があります。

台風事例報告①では、南風で強風となりやすい長崎空港で風が強まりました。台風が衰弱しながら九州を縦断した台風事例報告②では、台風中心や進路の東側の空港で風が強まりました。台風事例報告③では、九州は台風の進行方向の西側でしたが台風の「大きさ」が超大型だったため、台風に近い九州の東側の空港で風が強まりました。

台風が東シナ海から対馬海峡を通ると、台風の進行方向の右側となる九州北部地方では、台風事例報告④⑤のように広範囲で風が強まるので注意が必要です。

また、台風事例報告①では、前線と台風の雨域により九州北部地方で記録的な大雨となった所があり、台風事例報告④では、前線に向かう湿った東よりの風により宮崎空港で局地的な大雨となりました。

本号を今後の空港施設管理や運航管理の参考資料としてご活用いただければ幸いです。